

はじめに

高齢化の進行に伴い、介護分野の人材の確保が難しい状況が続いており、介護人材の確保が喫緊の課題となっている。こうした状況の中、「介護キャリア段位制度」は、介護分野の人材育成・定着を図ることを目的に、平成 24 年に制度化され、平成 27 年度からは、厚生労働省の「介護職員資質向上支援事業」として実施されている。

「介護キャリア段位制度」は、介護技能(介護の実践的スキル)を「見える化」し、介護技術評価指標として、介護職員の実践的なスキルを適正に評価しつつ、これを処遇や社会的評価の改善に結びつけていくことをねらいとした人材育成プログラムである。

制度導入から4年を迎えた「介護キャリア段位制度」は、これまでに全国約 12,000 名の評価者(アセッサー)が養成され、現在、この評価指標を用いた介護技術評価の取組みが、各地の介護事業所・施設において進められている現状にある。本制度を活用した取組みは、現場での OJT の実践と評価の取組みを通じ、専門性に対する気づきや発見、技術や指導に対する不安の解消や自信への繋がりといった、業務を遂行する上で重要な要素の数々を生み出していることが、これまでの調査や今回の調査においても、報告されている。

着実に内部評価の取組みが広がる中、本事業は、平成 27 年「介護キャリア段位制度に係る外部評価の効果的・効率的な実施方法と外部評価審査員の質の向上に関する調査研究事業」として、2つのワーキンググループを組み、外部評価と、内部評価の両側面における検討を重ねた。

検討委員会および外部評価ワーキングでは、介護キャリア段位制度の目的に資する形での外部評価の在り方について趣旨に立ち返り議論を行い、効果的、効率的な在り方について検討をした(報告書第1部)。

内部評価ワーキングでは、平成 26 年度に行った介護キャリア段位制度の介護技術評価のフレームワークを活用して開発された認知症者への配慮にかかわる介護技術評価項目案について、さらにその臨床的妥当性の検討を行うとともに、内部評価項目のデータ分析による評価順序性についても検証をした(報告書第2部)。

本事業の実施にあたっては、検討委員会委員長(及び外部評価 WG 座長)には小山秀夫氏(兵庫県立大学大学院経営研究科)、また内部評価 WG 座長として筒井孝子氏(兵庫県立大学大学院経営研究科)の協力の下、介護分野、人事管理、統計分析等、各分野の専門の方々に委員として参画いただいた。また、調査にあたっては、本制度に関わる介護事業所・施設の皆様にも多大な協力をいただいた。これらご協力いただいた皆様に、厚く御礼申し上げますとともに、本事業の成果、および介護現場における本取組みを活用した OJT の実践が、介護技術力の定着を介し、着実かつ強固な力となり、組織力強化へと、その効果を発揮していくことを願いたい。

平成 28 年3月

一般社団法人 シルバーサービス振興会